

## 総合海洋政策本部参与会議（第26回） 議事概要

◆日時：平成28年2月19日（金）15時30分～17時

◆場所：中央合同庁舎8号館8階 特別大会議室

◆議事概要（参与の発言は○、事務局の発言は●で示す。）

## 1. 開会

島尻海洋政策担当大臣より開会の御挨拶がなされた。

## 2. 各PTからの最終報告について

資料2-1～資料2-7に基づき、各PTの主査からそれぞれのPTの報告があった。

資料2-8、資料2-9に基づき、事務局から説明があった。

以下、意見交換。

- 座長の提案で各PTの共通事項がまとめられ、これにほぼ記載されていると思う。MDAに関しては、工程表では何箇所も記載されており、また、コンセプトについても出来上がっているとの認識である。提案としては、今後、さらに宇宙との連携を強調して、工程表を前倒し、システムの構築を平成29年度予算化することはできないか。これができれば、平成30年度からの次期海洋基本計画では、MDAという括り以上の、海洋情報の一元化の施策そのものが動き出すと考える。
- 今回、各PTの報告には政策に関する提言がかなり豊富に入っている。これら提言を座長からしかるべき方にご報告された後、政府が意見書に対する施策や予算について、どのようなタイミングでどのように反映するのかをしかるべき時期にとりまとめるべき。
- 4PTの共通事項は非常に重要で、意見書とりまとめの核となっていくと思うが、一方として、共通ではない事項も重要である。
- 人材育成の重要性を感じる。異分野の若い人や一般国民に海洋に興味を持ってもらえるよう、メディアを上手に活用すべき。環境問題は地味である反面、大きな課題である。伊勢志摩サミットでも海洋ごみは取り上げられるであろうし、分かりやすく、目立つように取り上げられるのが望ましい。
- 人材育成は、国民の理解がなかなか進まないことが大きな問題と感じている。それぞれの分野として求める人材像はあるが、一方、育てられる人材の側、つまり、育てられる人間やその親にとって、キャリア形成や生涯設計のビジョンが見えてこないから、親等もその分野に送り込もうとしないように感じる。海洋関連分野に携わる事で、どのような生き方が実現できるのか、人文科学的、社会科学的な側面でのアプローチを充実すべき。
- 4PTの報告書に加え、今頂いたご意見、各PTの共通事項についても盛り込んだ意見書案を作成し、次回の参与会議で議論したい。

### 3. 海洋基本計画のフォローアップについて

資料 3-1、資料 3-2 に基づき、事務局から説明があった。

以下、意見交換。

- 本日は、時間の都合でエッセンスだけ説明を頂いた。可能であれば次回の参与会議で改めて議論したい。

### 5. 閉会

- 各 PT 主査には PT 報告書のとりまとめに感謝。本日頂いたご意見を元に、意見書素案を事務局にて作成し、参与の皆様に対し照会させて頂きたい。

以上